

猫コロナウイルス (FCoV)

★検査材料は遺伝子専用としてお送りください。遺伝子以外の項目と重複している場合は必ず遺伝子用に材料を分けてください。

項目名	検査材料 必要量	送付 方法	所要 日数	検査 方法	検査項目の説明、注意事項
FCoV 遺伝子★	 胸腹水 脳脊髄液 0.3mL		5日 以内	RT-PCR	1. 健康例に対して FCoV 感染の有無と程度の確認はできません。このため健康キャリア、未発症キャリアの検査については FCoV 抗体検査をご利用ください。 2. 以下に本検査の FIP 診断に対する精度を示しております。なお、野外調査は現在進行中のため、下表中の値が今後変更となる場合もあります。 3. なお、ドライタイプ症例については血液材料ですが血清・血漿では感度がかなり低くなるため 全血材料での検査をお勧めします。
	 全血 (EDTA 処理) 0.5mL	 			
FCoV 抗体	 血清 (血漿) 0.03mL		3日 以内	ELISA	1. FCoV 抗体のレベル (抗体価) を測定します (定量検査)。 2. 胸腹水中の抗体価は血清中の抗体価とほぼ同じ、もしくは若干低めの値を示します。 3. 家猫以外の猫科動物 (ライオンやチーターなど) では若干検出感度が低下することがあります。
	 脳脊髄液 (CSF) 0.1mL				
FIP 診断のための検査					
AGP (α 1 酸性 糖タンパク)	 血清 (血漿) (胸水、腹水 は不可) 0.05mL		4日 以内	SRID	1. 弊社の AGP 検査は FIP の診断にご利用ください。その他の疾患や健康猫の基準値は設けておりません。 2. 過度の溶血材料については正確な結果がご報告できない場合があります。 3. 腹水や胸水の場合は血清中よりも低く測定されるため、本検査の材料は 胸腹水貯留症例であっても血清 (または血漿) でご依頼ください。

	特異性	感度
胸腹水材料	高	高
全血材料	中	中～高
脳脊髄液	高	低

特異性：非 FIP 症例が陰性であった比率すなわち**陽性の場合に FIP を肯定 (診断) できる確率**
 感度：FIP 症例が陽性であった比率すなわち**陰性の場合に FIP を否定できる確率**

【結果の解釈】

AGP (α 1 酸性糖タンパク)

弊社での FIP 症例と非 FIP 症例の成績から統計学的に以下のとおり基準値を設定しました。
 下記確率は FIP が疑われる症例に対するものです。

FIP が疑われる症例において約 93% の確率で	
FIP 肯定 (診断) できる値	> 2,460 μg/mL
FIP 否定できる値	< 1,450 μg/mL

※ FIP 症例 58 頭、非 FIP 症例 77 頭 (計 135 頭) の血清中 AGP を統計学的に解析しました <2013 年 4 月改定>

検査ご利用に
 病理検査
 犬ワクチンセット
 犬感染症検査
 猫感染症健康セット・
 猫ワクチンセット
 猫感染症検査
 薬物検査
 生化学・
 内分泌セット検査
 生化学検査
 内分泌検査
 その他の検査

FCoV 抗体検査

滲出型(ウェットタイプ) FIP を疑う場合

抗体価	コメント
100 未満または 100 ~ 400	FIP 発症の可能性は低いですが、免疫の低下や免疫複合体の形成により抗体価が著減する例がまれに存在するため必ずしも FIP を否定できません。
800 ~ 51,200	FIP 発症の可能性のある抗体価です。
102,400 以上	FIP 発症の可能性が非常に高い抗体価です。

非滲出型(ドライタイプ) FIP を疑う場合

抗体価	コメント
100 未満	FCoV に感染していません。FIP 発症は否定できるでしょう。
100 ~ 400	FIP 発症の可能性は非常に低いでしょう(一般的に FCoV 持続感染例の抗体価は 800 以上で推移します)。
800 ~ 3,200	FIP 発症の可能性はあまり高くありませんが、免疫の低下や免疫複合体の形成により抗体価が減少する例が存在するため FIP を否定する材料にはなりません。
6,400 ~ 51,200	FIP 発症の可能性のある抗体価です。
102,400 以上	FIP 発症の可能性が非常に高い抗体価です。

FIP を疑う症状がない例で、健康診断的に FCoV の感染をチェックする場合

抗体価	コメント					
100 未満	FCoV には感染していません。なお、感染が疑われる時から 2 週間以上経過していない場合は数週間後の再検査をお勧めします(抗体は感染直後には検出されません)。					
100 ~ 400	13 週齢以上	過去に FCoV の感染があったものの、すでに感染が終結している可能性があります(一般的に FCoV 持続感染キャリアでは抗体価は 800 以上で推移します)。半年~1 年後の再検査をお勧めします(感染が終結している場合は抗体価が低下し、いずれ陰転します)。				
	12 週齢以下	移行抗体であると思われます。				
800 ~ 51,200	9 週齢以上	FCoV に持続感染している(キャリアの)可能性があります。半年から 1 年後の再検査(FCoV 抗体)が必要です。再検査の結果は表 1) を参照してください。				
	8 週齢以下	移行抗体の可能性 があります。1 ヶ月 後の再検査をお勧め します。再検査の結果 の評価は表 2) を 参照してください。	25,600 以下	3 週齢	51,200 以上	FCoV に持続感染し ている(キャリア) の可能性がありま す。半年から 1 年後 の再検査(FCoV 抗 体)が必要です。再 検査の結果の評価は 表 1) を参照してくだ さい。
			12,800 以下	4 週齢	25,600 以上	
			6,400 以下	5 週齢	12,800 以上	
			3,200 以下	6 週齢	6,400 以上	
1,600 以下			7 週齢	3,200 以上		
800	8 週齢	1,600 以上				
102,400 以上	FCoV の反復または濃厚感染を受けた可能性があります(多頭数飼育では抗体価が高くなる傾向があります)、FIP(ドライタイプ)を発症している可能性も否定できません。					

表 1) 再検査の結果

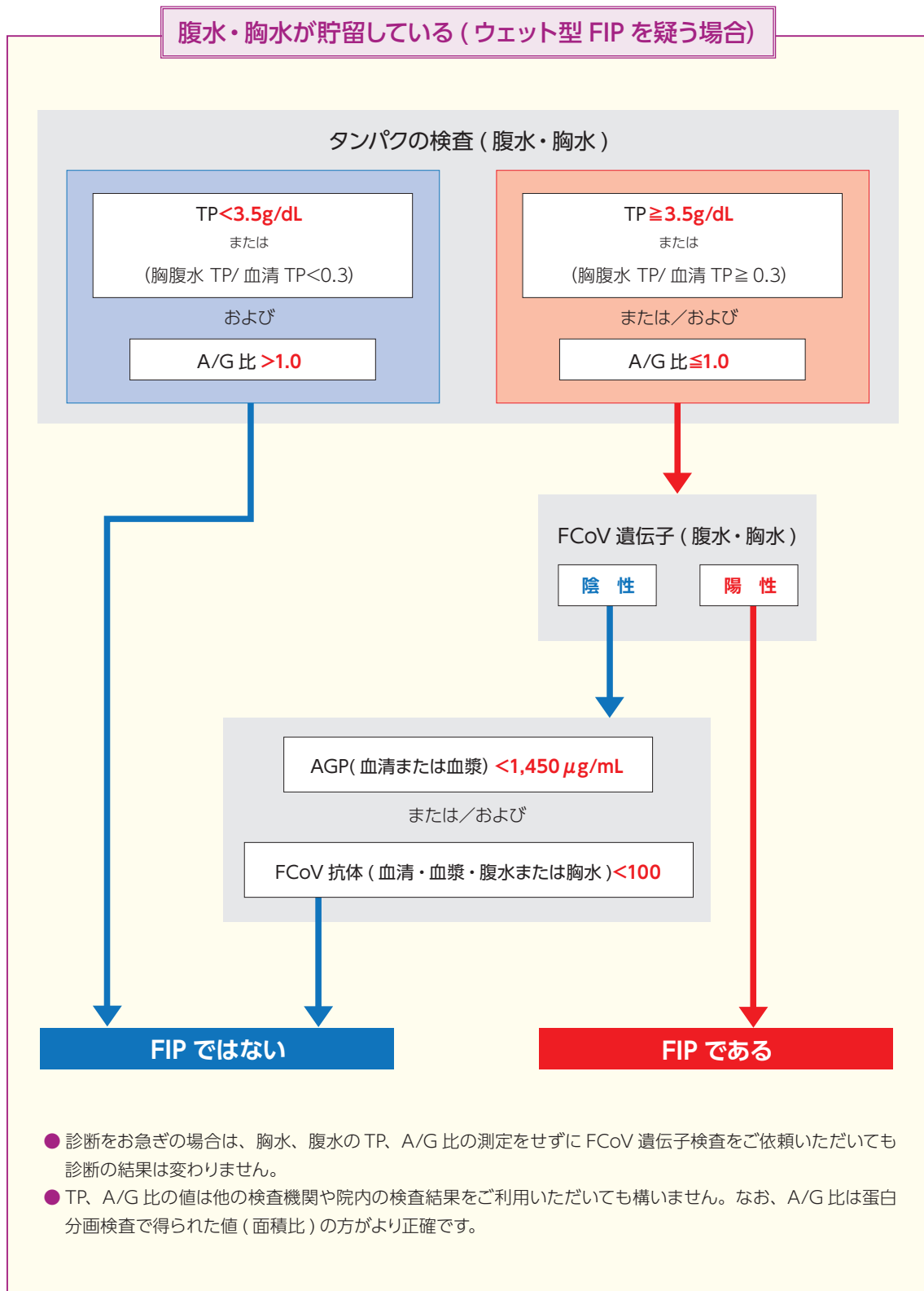
抗体価 100 未満	感染が終結しています。
抗体価が 1/4 以下に低下	感染が終結に向かっている可能性があります。今後定期的に検査し(半年~1 年毎)、最終的に陰転(400 以下に減少)することを確認してください。
抗体価が 1/2 に低下	検査誤差の範囲内ですので、必ずしも抗体価が減少しているとは言えません。引き続き定期検査(半年~1 年毎)をお勧めします。
抗体価に変化なしまたは上昇	持続感染が継続しています。今後定期的に検査(半年~1 年毎)してください。

表 2) 再検査の結果

抗体価が 1/4 以下に低下	感染していません(移行抗体です)。
抗体価が 1/2 に低下	検査誤差の範囲内ですので、必ずしも抗体価が減少しているとは言えません。さらに 1 カ月後の再検査をお勧めします。
抗体価に変化なしまたは上昇	持続感染状態であると思われます。今後定期的に検査(半年~1 年毎)してください。

【FIP 診断手順】

- 現時点で最も適切と考えられる診断指針を以降に示しました。残念ながら、これでも診断にたどり着けない症例もありますが、これまで以上の精度が期待できるものと思われます。なお、診断が見つからない場合は目安として2～3週間後に基準値に適合しなかった項目を再検査することをお勧めいたします。



胸水・腹水が貯留していない(ドライ型 FIP を疑う場合)

